令和４年度　第２回　校長「語らいサロン」

これからの外国語教育について

日時：令和4年7月9日（土）９：２０～１０：２０
場所：集会室
参加者数　１５名

川中子　OK, so... good morning, my dear parents.　Thank you for coming!　Welcome to Principal K's room.　I'm your today's host, principal Kawanago Toshio.　Let me introduce myself a little in English.　I was a junior high school English teacher for about twenty years.　I taught English to students in Tokyo, mainly in Adachi Ward and Taito Ward.　During my career of teaching English, I lived in Germany for three years.　I taught English to Japanese students in a Japanese international school in Germany.　So, today's theme, foreign language education is especially my issue.　I'm very glad to have you here to talk with you.　Thank you very much.　Thank you for coming.

本当にたくさんの方に集まっていただき、ありがとうございます。前回ですね、今年はテーマを保護者の皆さんに応募して、皆さんが話してみたいことをお話しできたらなと。アンケートを採ったんですが、その中で、今日の「これからの外国語教育について」というのがありまして、今日は早速そのテーマでお話ししようと思っています。他にもすごく興味深いテーマが寄せられましたので、順番にやっていきたいと思います。

それでは、今日はまず皆さんに、お集まりいただいていますので、皆さんの自己紹介を兼ねて、自分が学生時代に受けてきた英語の授業だとか、英語の学習のことで何か思い出すことがありましたら、お話しいただけたらなあと思います。それでは、Ａさんの方からお願いします。

Ａさん　３年に息子がいますＡと申します。私の受けた英語の授業は…、単語を覚えて文法を覚えて、たまにリスニングをするという授業でした。大人になって会話をしたくても英語が出てこない出てこない。すごくしゃべりたいなあと思って、何度もトライしようとしているんですけど、まったくしゃべれたって言う実感がないです。よろしくお願いします。

川中子　はい、よろしくお願いします。それでは、Ｂさん。

Ｂさん　６年と３年に息子がいますＢです。よろしくお願いします。一番最初に受けた授業は、中学校の英語だったと思います。英語の先生が、毎回英語の授業の初めに、覚えなければいけない、例えば、月であったり曜日であったり、Ｉ－Ｍｙ－Ｍｅであったりを歌にして毎回毎回授業の前にやってくれて、わりと英語の授業は楽しかった記憶があります。一番最初に英語に対して苦手だな、って思うと、ずーっとその後、嫌な記憶になってしまうと思うんですけど、最初英語に触れるときに楽しかったなっていう記憶があれば、子どもの頃から抵抗なく英語を学んでいけるんではないかなと思います。

川中子　ありがとうございます。では、Ｃさん。

Ｃさん　５年生に息子がいますＣです。よろしくお願いします。私はそれこそ、一番最初に躓いたタイプで。中学１年生の時から躓いて、赤点続きで、高校２年生くらいまで続いて、とにかく苦手しかなかったんです。で、高校３年生になって、慌てて受験勉強を始めたわけです。受験勉強は１年間頑張ったんですけど、結局短期で覚えたことは短期で忘れました！できれば息子にはそういう風になってほしくはないなと思っています。

川中子　はい。では、Ｄさん。

Ｄさん　Ｄと申します。子どもは５年生です。英語の授業に関しては、私自身が４年生までアメリカで過ごしてアメリカの学校に行っていたので、日本に来たときに英語の授業は基本的には聞いてなかった。先生より俺の方がうまいんじゃないか、と。

川中子　まあ、そうですね！

Ｄさん　特に、教科書の英文がすごくつまらなくて！物語もつまらないし。もう少し面白くやればみんな聞くんじゃないかなと思いながら、何かそんな風に感じていました。それ以来、高校まで英語の授業はぜんぜんで。テストは、たまに先生が授業でやった物語についての質問を出されると、授業を聞いてないからそう言うときだけは点数も悪かったです。

Ｅさん　Ｅと申します。２年生と５年生に子どもがいます。英語は小学校の高学年の時に、プライベートで、近所のおばあちゃんの先生から習っていたので、中学校の時は得意で、高校は進学クラスで英語の授業が７時間目にあるという特殊な環境で英語の授業は基本的に得意でした。逆に得意だったのを自分は勘違いしてしまって、社会人になったときに外資系の企業で会議などで苦労しているので、今でも英語を勉強しています。

川中子　ありがとうございます。Ｆさん。

Ｆさん　はい。２年生に子どもがおりますＦと申します。英語の授業は、私も中学高校と３年間ずつ、大学は２年間単位を取るためという感じでやっていたんですが、中高時代は、比較的英語の授業は好きで、テストもよかったんですけど。今思い出してみれば、いわゆる受験のための、点数とるための勉強しかしていなかったので、その後大学に入って英語の勉強もやめてしまったので、普段の生活の中では英語はまったく使うこともなく、話すこともなく過ごしています。実際に使えるような、子どもには、実際に英語を使えるような力を付けてほしいなあと思っています。

Ｇさん　Ｇと申します。２年に子どもがいます。ええ、こういう会は初めて参加するので、こうやって話をするとは思っていなかったんですが。英語の学習は皆さんと同じだと思うんですが、同じように型にはまった英語学習をしました。その後私は仕事の関係で海外畑で、イギリスやドイツにも駐在していました。それを考えてみると、みんな文法とか一生懸命やるので、書く英語を使うために一生懸命勉強をするんですね。だから、しゃべる…。将来的に何に向けて、何をゴールにしてやるかはっきりさせて子どもたちには学んでほしいなと思います。書く英語か、しゃべる英語か。特に後者の方はみんな苦手ですから。

川中子　はい、ありがとうございます。Ｈさん。

Ｈさん　Ｈと申します。２年生と５年生に子どもがおります。私も中高と英語をやりまして、個人的によくある英会話教室に通っていましたけど、自分の言いたいことを英語で話すことは未だにできていない状況です。今は、子どもが寝た後、主人と一緒に洋画を字幕と英語で見ることはしていますけど、やはり本当にジャパニーズです。

川中子　ありがとうございます。

Ｉさん　５年生と２年生に子どもがいますＩです。よろしくお願いします。私の中学校の英語の先生がすっごい美人で、英語がすごいぺらぺらしゃべれて、ああ、こういう先生みたいになりたいなと思って、その３年間すごく頑張って、いい点数も取れていたんですけど。高校になって、男の先生になって、なんか今までのモチベーションがたもてなくなっちゃって、挫折してしまって、そのまま英語は苦手な分野になってしまって…。何も分からない状態でいます。今子どもが中学生になって、英語の授業もあって、やっぱり苦手意識が強いみたいで、「私はアメリカで生まれたかった」って言われて！教えることもできないし、どうしたらいいかなって思っています。

Ｊさん　Ｊと申します。１年生に子どもがいます。私の場合は、小学生の時に初めて英語の授業を受けたんですけど、小学生のうちはまあまあ楽しくやっていて、中学生になると点数を取るためにの英語、覚えるタイプの英語になったので、完璧に話せないと照れちゃうから会話はしない、みたいな感じで。今日は今の学校がどんな感じなのか聞いてみたくて参加しました。（チャイムが鳴ってしまい、一部聞き取れませんでした。）

川中子　ありがとうございます。

Ｋさん　３年生に子どもがいますＫと言います。よろしくお願いします。思い出と言えば、This is a pen.　と　Humpty Dumpty と、それくらいで。同窓会で会った中学の先生が、あのときはごめんね！と言っていて、新任で授業しちゃってごめんねってことなんだろうなと。何で英語の授業あるかも分からずに、ただテストがあるからやっていたという感じで。子どもにはもっと身近な英語をやってほしいなと思っています。

Ｌさん　Ｌです。今、一時的に日本に来ていて、校長先生のご厚意で一ヶ月間体験入学させていただいているんですけど。私自身は日本で育って、三吾で育って、英語自体まったく興味はなく、中学の頃お兄ちゃんが洋楽雑誌かなんか買っていたのでそれを見て、洋楽に興味を持って、そこから何か英会話やってみたいなと思って英会話、イオンに通って。学校の勉強自体はおもしろくなく、まったくやる気が出なかったんですが、イオンでは会話中心の授業でそこでどんどんどんどん楽しくなってきて、外国人の友達がほしいなと思って、それで主人と出会ったんですけど。で、今、アメリカ８年目？思うのは、やっぱり楽しくないと続かない？教え方って言うのが、日本の、まあ今のことはよく分からないんですが、文法から入っているのかな。もっと体験型というか、参加型のところから入っていって、もっと興味を出してもらってやっていくのがいいかなと思います。

川中子　はい、ありがとうございました。

Ｍさん　５年１組のＭです。私は中学から私立の学校に親のすすめで受験をして入ったんですが、小学校の時はその頃は英語は習ってなかったので。まあ、小学校まではみんなできる勉強だったんですが、中学に入ってレベルが高くなって、とにかく、受験を目指す勉強、いい大学に行くための勉強って感じで、高校は英語科があるような学校だったので、英語にはすごい力を入れていて。中学に入って、本当にすべての勉強ができなくって、本当に英語は赤点が常連なくらい苦手で、どんなに覚えようと思ってもどんなに書いてもぜんぜん頭に入らなかったんですよ。英語がすごい楽しいはずなのに、楽しいっていう勉強ができずに、すごい苦手意識を持って育ってきて。今の子どもが、一番上はもう成人で、真ん中は高校生なんですが、私は、成績がいいからすごいねって、本当に４０点でも取ればすごいねって思ってしまうくらいなので。で、大人になって、歌を聴いたりですとか、勉強としてはぜんぜん吸収できなかったのに、書くことは全然できないんですけど、音で聞いて好きなもので吸収して、あれはどういう意味なのか、子どもより分かったりですとか、けっこう単語は何だか覚えているなというのがあって実は頑張ってやっていたことは嫌々だったけど点数は取れなかったけど、今頃になって覚えているんだなと。

それから何年か前に仕事をしていたとき、フィリピンの方とかイランの方とかが入っていてイランの方はペ

ルシャ語がメインで、英語が外国語ということで、英語は片言なんですけど、日本語はもっと片言で、で私はぜんぜん英語はできないで、日本語と英語とペルシャ語と交えながらすごいジェスチャーで手振り身振りとかで話したりとかフィリピンの方もそうで。海外の方って、第２母国語のように英語がしゃべれる、私は全然しゃべれない。しゃべれないのレベルが全然違うなと。日常会話ができていてもしゃべれないと言われていて、彼らは英語って言うのをすごく共通語として大事にしているなというのを感じましたし、ジェスチャーで通じるって言うのも、すごく楽しかったので、書いて机上で勉強するって言うだけじゃなくて、手振り身振りとか、身体を動かして、伝わらないならジェスチャーで伝えるとかっていうそういう楽しさって言うのを、やっと４０過ぎて知ったというか。できれば嫌いにならないで、子どもたちには、点数取れなくてもいいので、楽しいって言う気持ちをもって勉強してほしい科目だなあってすごく思っています。

川中子　はい、ありがとうございます。では、Ｎさん。

Ｅさん　それじゃ、最初はみんな英語で…。（笑）

Ｎさん　あ、英語で？　Good morning everyone!（笑）Ｎです、５年１組の娘の父です。南地区の地区長やっています、よろしくお願いします。自分の受けた英語の授業…ですか。ちょうど来月からアメリカ行くことになってまして。ほぼ語学能力ないまま行くんですけど。１２年前も一回半年間アメリカ行ったんですけど。ほぼ、単語だけで会話で、身振り手振りで意外と行けちゃうもんだなと。今年はまた、来月から行くんですけど、前回と同じように何も勉強せずにそのまま行って、身振り手振りで乗り切ろうかなと。

川中子　ありがとうございます。えー、今お仕事とかで英語を使われていらっしゃる方はどれくらいいらっしゃいますか。（３，４名）で、私が中学校の教員になったのがもうずいぶん前の話ですけど、最初に教えた子たちがもう４８かそれくらいになっているんですね。ということは皆さんの年代の方は、私たちが英語を教えたと言うことになるのかなと思うのですけど。まず、今皆さんが英語に苦手意識があるとしたら、我々が、その時の先生だった人たちが悪いわけですね。（笑）やっぱり、モチベーションが高まるかどうかは先生にかかっているわけで、まあ先生があまりよくなかったからできないのかなと。その、先生たち自身も同じようにあまりできない状態のまま先生になっていますので、とにかく、明治以来、まあ英語が必要になってきたのは江戸時代の終わる頃からですから、明治になって英語英語って言われるようになってきたのですが。当時、外国語の勉強って言うのは、Grammar-Translation Method、つまり文法訳読法という、これは、昔ヨーロッパの人たちがラテン語という学術用語を学ぶためにやっていた学習法で、例えばフランス人ならフランス語にドイツ人ならドイツ語に、ラテン語を訳しながら覚えるというやり方をしていたわけで。まあ、そういうやり方でも一生懸命やればある程度できるようになるんですが、まあ、非常に効率が悪いというか、まあしゃべる英語にはならないということです。それが我々が受けてきた頃の英語の授業でしたし、我々が最初の頃やっていたのもそんなやり方でした。Ｄさんのお話にもありましたが、教科書に書いてある内容が面白くないとか、そういうのは当然あるわけで、面白いのを書くと子どもに分からないという、そういう難しいこともあるわけです。今日はですね、そういう英語の授業だったのがやっぱりダメだということで、日本も本格的に改革をして、やろうよとなってきたことを、初めに私の方から簡単に紹介させていただき、今の英語教育がどうなっているかと言うことについてお話しします。

平成１５年、私がまだ英語の教員をやっているころだったんですが、文科省が「英語が使える日本人構想」というプロジェクトを立ち上げてですね。その時日本の公立の学校の英語の先生を、全員、1、２週間の研修に参加させるというのがありました。私もちょうどドイツから帰ってきて、参加しました。英語を、コミュニケーションの手段として使うような英語に変えていこうと。それで、私も他の先生たちと一緒に研修をやってみて、やっぱり英語の先生自身がダメなんですよ。私もあんまり得意なわけではないんですが、レベルは大したことないんんですが、それでもそんな私より低いんですね。これじゃダメだなと思いました。

ヨーロッパから帰ってきてですね、大学出た人が英語が喋れない状況はありえない、そんなの当然喋れる、普通にコミュニケーションが取れる程度には喋れるというのは当たり前のことなんですね。だけど、日本の人は大学まで一生懸命勉強しているのですが、喋るのは苦手と。そんなことがあって、文科省も日本の教育を変えていこうと頑張っているわけです。平成２３年ですね、小学校の英語が始まりました。その平成２３年というのは震災のあった年で、その年から私は小学校の副校長になりまして、英語の先生ではなくなったんですけど。その前から少しずつ英語の授業は始まっていました。ちゃんと始まったのは２３年からでした。

そして、２６年、文部科学省の「グローバル化に対応した英語教育実施計画」という、大きな改革がありまして、今後どういうふうに変えていこうという案が出ました。その中で、令和２年、５、６年生を教科としてやろう。それまでは、「活動」として、勉強じゃないよ、という扱いだったのが、今度は教科としてやろうと。その移行期間として、平成３０年から２年間、外国語活動を３，４年生に降ろして、３年生から英語教育を始めようと。まあ、３年生から始めるとなると、１，２年生からも少しは英語に触れる活動を行うようになるわけです。

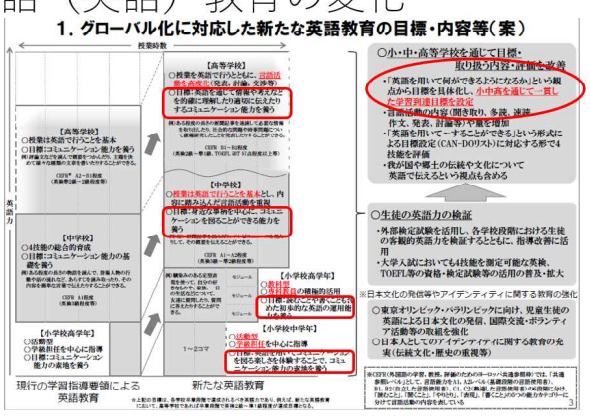
というような感じで、令和２年度から、小学校で正式に英語教育が始まりました。先程お話ししたように、「グローバル化に対応した英語教育」ということで、まず「グローバル化」ということで「国際共通語である英語」という話がとうとう出てきたんです。それまでは「国際共通語である」という話はしない。英語は外国語いっぱいある中の、中国語や韓国語という中の一つだったわけですが、とうとう国際共通語であるという話が出たわけです。これはインターネットのせいで。インターネットの世界はほとんどが英語で、英語の情報量は全く違うんですね。英語が国際共通語であるという地位を得ているわけです。で、その計画の中でですね、私は英語の教師としてびっくりしたんですが、「アジアでトップレベルの英語力を目指す」と言っているんです！　Ｅさんは、アジアでお仕事もされているので感じると思うんですが、アジアでトップレベルの英語力というのはものすごく高いんですね。我々にとっては、ものすごく高い目標だと。英語の先生たちはこれくらいを目指していたのに、いきなりこれくらいの目標が出てきたんです。それで、なんでそんな目標が出てきたかというと、まず２０２０年に東京でオリンピックをやりますということが決定したので、それに向けて何とかしようという、無謀な目標が出てきたんです。何とかするために、まずは、小学校で英語を勉強させましょうというのが出てきたんですね。それまで、小学校の英語の勉強というのは賛否両論ありまして、小学校時代は国語に力を入れるべきだという意見と早いうちから勉強させたほうがいいという、どっちも大事な意見でした。この時に出たのが、５，６年生で３時間、３，４年生で２時間という案だったのですが、さすがにこの案は反対も多く、結果的に５，６年で２時間、３，４年生で１時間というところで落ち着きました。それから、英語の授業をそれまで初めていた中学校では、英語をコミュニケーションとして教えてほしいと。コミュニケーションの手段として教えてほしいということで、先生は英語で授業をしなさい、となりました。まあ、今の先生はある程度はできるんですが、まあ、ちょっとびっくりしたかな。高校の先生は以前から英語でやるようになっていたんですが、高校を卒業した段階ではビジネスでも使えるくらいの英語力、それくらいの高い目標を掲げているんです。まあ、小学校からスタートすることになりましたから、随分長い時間をかけてやることになりましたので、小中高の各段階を通じて、英語教育を充実させていこうという、壮大な計画が出来上がりました。

時間さえかければ、必ずしも…まあ、モチベーションを長い間維持するのも難しいので、我々にとっても大変だなと。元々私が英語の先生をやっていた時に、中学卒業した時に英検３級程度の力はみんなにつけさせたいというのが目標で、高校卒業した時に２級くらい。そんなこと言っているうちに、英検準２級なんていうのも出てきたので、高校卒業するときに５０％くらいは準２級を取らせたいと。それからだんだん話が変わってきて、小中高を通じてどこまでにしていこうか、となり、英検でもよかったんですが、小学校低学年段階では何を目標にするかというと「コミュニケーション能力の素地」、高学年では「コミュニケーション能力の基礎」「基礎」というのは、それまでは中学校の目標だったんですが。中学校では、コミュニケーションが「簡単なコミュニケーションができる」そして、高校になるとさらに高い目標となり、大学になるとさらに専門性を身につける。基礎的な英語の上に専門用語を積み重ねていく。例えば、科学の人たちには科学の英語を身につける、文学の人には文学の英語となります。

それで一番大きく変わったのは何か、というと、とにかくコミュニケーションの手段としての英語にしていこうと。This is a pen.を「これはペンです。」と文法的なことをするのではなく。大体 This is a pen.なんていうコミュニケーションをする機会なんて、ほとんどないわけで、ペンを見せて This is a pen.なんて、そんなの見ればわかる！知っている！と。（笑）本当に使う英語を、生の英語、本物の英語を学ばせるとなってきたわけです。先生たちは単語を覚えさせなきゃ、文法を覚えさせなきゃ、文型を覚えさせなきゃと、色々そういう工夫して、いろんなティーチング・メソッドを使ってやってきたんですけど、それでも喋れるようにならなかった。なぜか？ということなんですが、喋らないかだ、ということです。とにかく喋るようにしよう、と。中学校の先生に英語で授業やりなさいっていうのは、英語で文法の難しいのを説明するということではなくて、話しかける、つまりコミュニケーションしなさいということです。小学校の先生たちは、担任の先生たちが英語の指導法の勉強をやってきたわけではないので、これからやるって感じになっちゃっていますが、そこにアシスタントのネイティブ・ティーチャーが入って一緒にやるっていう形です。

実際のコミュニケーションって、一体何なのか？　例えば、How are you?というのは皆さんよく聞きましたよね？ I'm fine, thank you.　And you?って答えるんだよ、って教わったと思います。だから、授業で How are you?と先生が聞いて、子どもが I'm fine, thank you.というと、Good!って言うですね。何が Good なのか？　まあ、I'm fine.で Good.ならいいんですが、子供たちが I'm sleepy.とか I'm hungry.と答えたとします。子どもは子どもの本当の気持ちを伝えたとします。でも英語の先生は、How are you?　と聞かれたときの答え方として、I'm happy. とか I'm sleepy.と答えればいいと教えていますから、英語で答えられたという事実に対して Good!と言っている。ちゃんと答えたね、という意味です。これはコミュニケーションではなくて、英語で答えられたというだけであって、本当なら I'm sleepy.と子どもが言ったら、What time did you go to bed? とか、Didn't you sleep well last night?とか聞くわけです。それが、今までの英語の先生は Good!と言っちゃっていた。その考え方を変えなさい、っていうのが今回の国が言い出していることです。それから、練習としては必要ではあるんですが、単純にリピートさせることも、練習としては必要ですが、意味を伝えているわけではありません。子供たちは英語を話してはいるけれど、コミュニケーションではない。まあ、こういうようなことが、コミュニケーションではないよという例としてあげられています。

で、国が、ちょっと格好つけて言い出したのが、「英検３級」「４級」だというのは、あまり格好よくないということで、



CEFR（セフアール）というのを使おうと。CEFR というのは、ヨーロッパ言語共通参照枠のことで、ヨーロッパの人たちっていうのは、本当にすぐお隣に住んでいる人が違う言葉を使っているという中で生活していますので、外国語という感覚が島国の我々日本とは違います。あと、もともと似たような言葉から派生してそれぞれの言葉になっていますので､外国語というものに関しては、使用頻度がまったくちがいます。外国語がどれくらい使えるか、というのは、例えば就職するときに、私は英検２級です、と言えば、あなたは英検２級程度の力があるんですね、それならこういう仕事をしてもらいましょう。そういう枠が必要になってくるわけで。

最初は Can-Do と言っていました。Can do つまり「私はこれができる」っていう規準が必要だと言いだしたんですね。そこで、ヨーロッパで使われている参照枠を使って、どれくらいできるかという規準を作ろうということです。この CEFR は A1 から C2 までの段階に分けてあって、C2 なんていうのはネイティブと遜色ないレベルですね。今回の提言では、中学卒業までに A1 の力をつけさせたい、と。ここに書いてあるとおり「具体的な要求を満足させるための、よく使われる日常的表現で基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、すんでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問したり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。」つまり、その国の言葉を使って、何とかコミュニケーションを図ることができるという段階ですね。これを中学を卒業するまでにつけさせたいと。A2 というのが「ごく基本的な個人情報や、家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。」まあ、ある程度の付き合いができる外国語の運用能力で、これを高校卒業までにつけさせたい能力としました。最初は、B1 くらいを目指す計画だったんですが、最終的にこれくらいに落ち着きました。５０％くらいの人に中学卒業するまでに A1、高校卒業するまでに A2。そして、英語の先生になる人には B2 という規準を設けています。これをわかりやすく日本の資格試験に当てはめていくと、例えば A1 は英検３級くらい、A2 が英検準２級から２級くらい。資格試験は満点を取らなくとも受かりますので、３級で満点を取るくらいの力があると準２級にも合格します。資格試験の合格者には幅があるわけです。高校卒業するまでに２級の資格が取れると、英検からは海外の大学で学ぶだけの英語力があるという証明をしてくれます。B2 というのはこのへんですから、準１級くらい。準１級というのは結構難しいので、それくらいの英語力が必要とされるわけです。私は B2 までいかないかな？何が違うかというと、ある程度の語彙力がないとだめですね。上の方に行けば行くほど、語彙力の差になります。

というのが、日本の英語教育の変遷なんですが、とにかくコミュニケーションに使える英語に変換していきたいということで、小学校から始まったのが３年生からの外国語活動、５年生からの外国語。なぜか、「英語」とは言わないんですね。中学校では「外国語」なんですが、「英語」と言っているんですけど。そこに置いたのが今３，４年が使っている教科書のようなものです。こういうのを使ってコミュニケーションを図ろうというものです。そして、これが昨年度より始まった教科としての「外国語」の教科書です。こちらは教科としてのものですから、きちんとした教科書らしいものになっています。各教科書会社が初めて作った１冊目の教科書です。それから、各自治体が独自の教科書も作っていまして、これは東京都が作った Welcome to Tokyo という教科書で、レベルに応じて３種類あります。かなりハイレベルなものです。これが、オリンピックの時に東京の紹介ができるようにさせたいという思いで作られた教科書です。

それでは、ここで、昨日、一昨日あたりにやっていた授業の様子を見ていただきます。（動画視聴　１年外国語活動、６年外国語）

こんな感じで、コミュニケーションに特化した、特に話す・聞くという活動をメインに授業を行っています。５，６年生では少し、文字についても勉強していって、書いたり読んだりできるようにしています。書いてあるものを見て orange とか pineapple とか読める、そして見ながら写すことができるなどに取り組んでいます。これまでは中学に行ってから A,B,C と書く練習をしていたんですが、これからは中学ではそういう指導はしない、と。すでに小学校時期で習得しているという前提で授業を進めることになりました。中学校の先生に聞くと、もう４年間もやって来ていますから、ある程度のやり取りというのはできるようになっている。聞いたり、あいさつしたり、英語で話したり、英語を使って何かをしようという意思をもっている、というのは違ってきていると言ってます。

この提言の中でも、中学入試には英語は使わない、という話が出ています。そうしないと、受験英語になってしまうので、やらないようにしようというわけですが、私立はこれからやるようになるのかどうか心配です。で、先日も墨田区の学力調査があって、昨年度から６年生の英語のテストが行われているんですが、ちょうど今年度の結果が返ってきました。今回、平均点が 89.8、墨田区や全国平均よりも高くてよかったなと。この子たちは 4 年生からＨ先生の教

科担任の授業を受けてきましたので、子供たちもとっても英語が好きです。

子供たちに英語を使う機会をたくさん持たせながら、少しでも英語の音だとか、語順だとかを何となく小さいうちから身に付けさせていく。そして中・高でさらに力を高めていく。今、一番取り組んでいる一つが、大学入試をどう変えていくかという問題で、４技能書く・読む・聞く・話す、というのをどう測るか。これまでは筆記試験で読む・書く中心で、せいぜいリスニングテストで聞く力を試してきたんですが、どうしても話す力を測定するのが難しく、話すのスキルが測れなかった。そんなわけで、民間の資格試験を入試の得点として活用できるようになってきたりしています。まあ、英検は話す試験も実施していますので、かなり質のいい資格試験にはなっていますから。国際的かと言われると、海外の人は英検って何？といわれてしまうんですが。

こんな風に英語の学習も変わってきたかな、というのをお話ししました。皆さんが受けてきたころとは少し変わってきたかな。間違えたりするのを恐れずに、意思を伝え合う、コミュニケーションをする力をつけさせたいというものです。実は、コミュニケーションの力というのは、英語で身に付けるものではなく、普段我々が使っている日本語でできるようにならなければなりません。そういう意味では、国語がとても大事です。英語だけやっていればいいのではなく、国語でコミュニケーションが図れる力を育成しなければなりませんし、日本の歴史や文化についてもしっかり知識として身に付けておかなければなりません。まあ、さっきお話した「グローバル化に対応した」ということで、東京２０２０を目標にやって来ましたので、改革はすごく進んできているかなというかんじです。この子たちが大きくなって、英語を使って働くっていうことは多くなってくるし、ここにも書かれているんですが、「2050 年には我が国は多文化・他民族の国家になっている。」日本には日本人だけでなく、様々な国の様々な文化やものの見方考え方の違った人たちがともに生きていく時代になります。その時にコミュニケーション力がないと、社会が成り立たなくなるよと予想されている。それに対応する力をつけさせたいというのが、国が考えていることですので、私たちも真剣に取り組んでいかなければなりません。

ということで、私の説明で終わってしまいましたが、こんな感じに変わってきたというのはおわかりいただけたでしょうか？　「こうならなければいけない」と皆さんが思っているように少しは変わってきていると。ただ、当然、皆さんも分かると思うんですが、外国語を身に付けるというのは本当に難しいことです。まったく簡単ではありません。本当に努力しないとできない。ただ、よりよく学ぶ学び方はある、と思うのでそれはそうあるべきですが、努力しないでできるようになるということはありません。例えば、お子さんを明日からアメリカに連れて行ったら英語がしゃべれるようになるかと言ったら、なりません。子どもは、子どもなりにものすごい努力をします。生活の中で。うちの子は、ドイツに行ったとき、ドイツの幼稚園に入りました。最初は５歳くらいだったかな？　最初の１ヶ月、２ヶ月は、夜中にうなされていたり、幼稚園から帰ってくると、やたらにものを食べて吐いたりして、精神状態が追い込まれるようなストレスを感じていたようです。知らないうちに少しずつしゃべれるようになって、家族の中で一番上手にドイツ語を話せるようになりましたが、その子が日本人学校に入ってドイツ語を使わない生活になったら、あっという間に忘れてしまうんです。子どもは使うものは使いますが、使わないものは捨てます。記憶はそのようにできているんですね。使わないものは捨てて、次に使うものをどんどん吸収していかないとなりたたないと。実は私も今少し英語を勉強しています。校長になって、少し自分の時間を使えるようになってきたので、例えば朝通勤途中に英字新聞を読むとか、英語の本を読んでみるとかそんな努力をしています。努力をしないとダメですね。お子さんたちが努力を努力と思わないでいられるようにさせてあげるのが大事かな。それでは後からいらっしゃった方、いかがでしたか?

Ｏさん　１年生のＯです。まだ１年生なんで、英語の勉強はしないのかなと思っていたんですけど、学校の暗唱で英語の課題も見たことがあって、校長先生がもしかしたら英語が大好きなのかなと思っていたんですが、今日来てみて、娘にもがんばってほしいなと思いました。

川中子　ありがとうございました。まあ、小学生ですので、そんなに英語をやらなくてもいいかなとも思うんですが、やりたいって子もいて、それから今Ｌさんもいらっしゃいますが、娘さんが先日暗唱受けに来てくれて、賞状も渡したんですけど、子供たちはああいう課題を出すと、けっこう一生懸命やっていたり、特に小さい子が一生懸命取り組んでくれるんですね。校長室の前を、英語の歌を歌いながら帰って行くなんてこともあります。そういうのもほのぼのとした感じでいいなと思ってます。まあ、もしかしたら、おうちの方が一生懸命教えてくださってるのかなと。

それでは、今日は、これで終わります。ぜひ、これからもこれに懲りずにサロンにご参加ください。お友達もお誘いください。ありがとうございました。